



## 地域医療の拠点を新たな拠点に…NPO 法人の挑戦

和歌山県の空き家率は全国 2 位。全国 1 位の山梨県は多くの別荘が空き家としてカウントされているという事情があることから、実質の 1 位は和歌山県ではないか、ともいわれています。実に 5 軒に 1 軒が空き家という計算で、大きな社会問題になり始めています。そんななか、空き家の譲渡を受け、拠点に活かそうとする NPO 法人があります。その挑戦を追いました。



大正時代に建設されたという元病院

**「地域に必要」な拠点を**  
伊都郡かつらぎ町で不登校児やひきこもりの方の社会復帰や就労支援に取り組む「NPO 法人よりみち」。不登校やひきこもりの家族を持つ保護者を中心としたサークルが母体で、9 年前に NPO 法人に。以来、社会復帰を目指すかもの居場所づくりに取り組みしてきました。  
現在は町の施設を借りて活動をおこなっています。利用者のニーズを元に女性専用の通所日や、不登校状態の児童や生徒向けの通所日を設定したり、利用者による料理や買い物などの機会を提供し社会的な身につけてもらったりと様々な創意工夫を



NPO 法人よりみちの田中理事長

**「よるずやの拠点にも**  
オープン当初は医院跡の部分を主に使う計画です。  
医院の待合室だったところには絵本図書室が既に設けられています。また、診察室や受付など医院の業務ス

こらしています。  
このように活動が徐々に拡大していくなか、新たな居場所として使えるスペースを探すことになりました。  
そんななか、情報が寄せられたのは町内の医院跡。数年前に院長が亡くなられてから空き家に。大阪で暮らすご子息に建物借りられないか打診したところ、NPO の活動に共感され「住居部分も合わせて無償で譲渡したい」という思わぬ申し出がありました。  
NPO としては建物の譲渡を受け入れるのが困難だったため、別の社会福祉法人に譲渡し、社会福祉法人と NPO で共同運営することに。それまでは地域

にあって欠かせない医療の拠点だった建物に、福祉のアプローチによる人づくりの拠点を生み変わることに  
今年 3 月、地域へのお披露目を兼ねた内覧会が開かれました。  
近隣の方からは「この先生にはお世話になった」と懐かしむ声のほか、「近くの保育園が閉園になりさみしくなっていたので、人が集まってくれるのがあるが」といった歓迎の声が寄せられました。  
建物を管理する社会福祉法人では、老朽化していた部分を少しずつ改修しながら NPO とともに事業計画を策定。7 月 1 日に元の医院名を冠して「よりみち菊谷」として正式にオープンしました。  
ペースだったところは NPO が若者の居場所として活用します。  
ところで、この建物がある周辺は JR 和歌山線の駅に近く、かつては商店も多い、地区の中心的な場所だったといえます。しかし今では商店は数えるほどに。そこで「よりみち菊谷」では、ちよつとした食料品や雑貨などを購入することができ、店舗機能を持たせることも計画しており、この部分は社会福祉法人が就労支援事業として担当する予定。  
また、住居部分は地域の方も使える学習会などの用途に、また学生などを対象とした合宿にも活用できるので



活動に使えるように少しずつ改修されました



**よりみち菊谷**  
伊都郡かつらぎ町大谷 163  
<https://www.facebook.com/npoyorimichi>  
メール [yorimichi@chic.ocn.ne.jp](mailto:yorimichi@chic.ocn.ne.jp)  
今後の開所日等の詳細は上記 Facebook ページでご確認ください。町外の方が利用できる日もあります。

**様々な人の「居場所」に**  
「よりみち菊谷」は、ひきこもりや不登校だけでなく、病後やケガ、家族・友人関係、介護など、様々な事情で心が孤独な状況にある方を広く受け入れる居場所として開放していく計画です。  
想いをもって活動している NPO と、想いに共感して不動産の提供を申し出た方。こうした連携が今後県内でも増えることが期待されます。(志場久起)

## わかやま SDGs パートナースHIP 基金特別版 6 月豪雨災害被災地復興支援基金 へのご寄附を募集します

みんなの力で和歌山の復興を！

11 住み続けられるまちづくりを



今般の豪雨災害で被害を受けられたみなさまに心よりお見舞い申し上げます。この豪雨では県内で 3,400 棟を超える建物で浸水や損壊などが確認されているほか、農林水産業関連では 4,000 箇所以上で土砂崩れなどの被害が発生する大きな災害となりました。多数の県内外のボランティアのみなさんのご協力をいただきながら、家屋等の応急復旧が進められ、住まいの復旧はおおむね完了に向かっていますが、被災地は高齢化が進んでいる地域が多く、生活の復興に向けては、「地域での支えあい活動」をどう活性化させるかが大きな課題となっています。

17 パートナースHIPで目標を達成しよう



わかやま NPO センターでは社会福祉協議会などと連携しながら、支えあい活動の活性化に取り組みますが、財政的に活動を支援する仕組みとして、既存の「わかやま SDGs パートナースHIP 基金」の枠組みを活用し、助成を実施することにいたしました。その原資をみなさまからのご寄附としてお寄せいただきたく、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。  
県内の被災地に対して、みなさまからの暖かいご支援をいただきますようお願い申し上げます。

寄附受付金額 **1 口 3,000 円**～ 寄附受付目標額 **150,000 円** 8 月末まで募集予定です。

いただいたご寄附は、水害被災地を中心に、住民同士の支えあい活動をおこなう団体に対して助成します。3 万円を 5 団体に助成する計画です(寄附金額により変動することがあります)。なお、助成に際しては、わかやま NPO センターが設置する審査委員会にて審査を実施します。

### 主な用途の想定

- ▶ 被災した地域での住民同士の交流会・カフェ
- ▶ 地域で困難を抱えた方の支援、多世代の交流ができる機会の提供(こども食堂・地域食堂など)
- ▶ 生活復興に向けた学習会・研修会 など

### ご支援の方法

- ▶ 1 口 3,000 円からクレジットカード決済・銀行口座への振り込みにより受け付けます。決済・入金方法の詳細は右上の二次元コードからご覧いただけます。クレジットカード決済はスマートフォン・パソコンから受け付けます。決済にかかる手数料はわかやま NPO センターが負担します。銀行口座へのお振込みの際の振込手数料はご負担いただけますようお願いいたします。
  - ▶ 本基金へのご寄附は寄附金税制の対象となります。
- ※ 寄附金控除について…ご寄附いただいた金額から 2,000 円を差し引いた金額の約 50%が、確定申告により所得税等から控除されます。法人の場合は損金算入限度額が拡大されます。

### 【運営】

認定特定非営利活動法人わかやま NPO センター  
〒640-8331 和歌山市美園町 5-6-12  
TEL 073-424-2223 FAX 073-423-8355 E-mail info@wnc.jp URL <https://wnc.jp/>  
【事務所不在時、電話は和歌山県 NPO サポートセンターに転送されます】



こちらから決済ページにアクセス可能です

## 和歌山市 NPO・ボランティア推進協議会だより

### AED を体験してみよう！

日程 8 月 27 日(日)  
13:30～15:00  
場所 和歌山市地域フロンティアセンター会議室 C (フォルテワジマ 6 階)  
講師 和歌山市消防協会・防災学習センタースタッフ  
定員 20 名(予定)  
参加費 無料  
主催 和歌山市 NPO・ボランティア推進協議会  
申込み メールか FAX で受付。  
[jkusukusu0818@gmail.com](mailto:jkusukusu0818@gmail.com)  
FAX 073-455-3580  
いずれも「AED を体験してみよう」への参加申し込みであること、お名前・連絡先をお知らせください。  
8 月 20 日締切です。

【このコーナーでは、和歌山市 NPO・ボランティア推進協議会加盟団体の主催イベント等の内容を不定期にお知らせしています】